

CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows はじめての ProcessSaver

第 3 版

2014 年 3月

日本電気株式会社

日頃より弊社製品をご愛顧いただきありがとうございます。
このたび、お客様にご利用いただく「ProcessSaver」でのプロセス監視手順について説明させていただきます。

改版履歴

版数	改版	内容
1.0	2012.09	新規作成
2.0	2013.09	Windows Server 2012 対応
3.0	2014.03	Windows Server 2012 Datacenter、Windows Server 2012 R2 対応

(1) マニュアルについて

本マニュアルでは、CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows
(以後、ProcessSaver と記載します)の監視手順について説明します。

(2) 商標および著作権について

- Microsoft、Windows、Windows Server は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
 - Windows Server 2003 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2003 Operating Systemです。
 - Windows Server 2008 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2008 です。
 - Windows Server 2012 の正式名称は、Microsoft Windows Server 2012 です。
 - その他、本書に登場する会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
- なお、本書では®、TMマークを明記しておりません。

目次

1. はじめに
2. プロセス監視の流れ
 - 2.1. プロセス監視の仕組み
3. インストール
 - 3.1. 事前準備
 - 3.2. Microsoft .NET Framework 3.5 のインストール
 - 3.3. ProcessSaver のインストール
4. 監視の設定
 - 4.1. 再起動スクリプトの作成
 - 4.2. 設定ファイルの作成
 - 4.3. プロセス監視の開始
5. 監視の確認
 - 5.1. 監視状態の確認
 - 5.2. 監視対象プロセスの消滅検知および再起動の確認
 - 5.3. RetryOver の確認
 - 5.4. プロセス監視の復旧
 - 5.5. プロセス監視の終了
6. 自動起動設定について
 - 6.1. PcheckRunList の設定
 - 6.2. 自動起動設定の確認
7. おわりに

1. はじめに

「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows はじめての ProcessSaver」は、Windows Server 2003(32bit) の ProcessSaver によるプロセス監視の基本的な設定および監視方法について説明します。プロセス監視の設定および監視手順を一連の流れでご確認いただくことで、ProcessSaver の動作を理解することができます。

本書での表記規則について、下記のように定義します。

記号表記	使用方法	例
『 』	画面名の前後	『Create Pfile』は、Pfile を作成する画面です。
「 」	参照するマニュアル名の前後 参照する章および章のタイトル名の前後	「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows インストールガイド」を参照してください。 「4.1 再起動スクリプトの作成」を参照してください。
【 】	ファイル名およびフォルダ名の前後	【インストールフォルダ】¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥【Pfile名】
[]	項目名の前後・タブ名の前後	[ProcessSaver Console] を選択してください。 [Create Pfile] タブを選択してください。
太字	機能名	MsgCheckInterval を設定してください。
斜体、太字	ボタン名・チェックボックス名	OK を押してください。 <i>LocalUser</i> にチェックしてください。

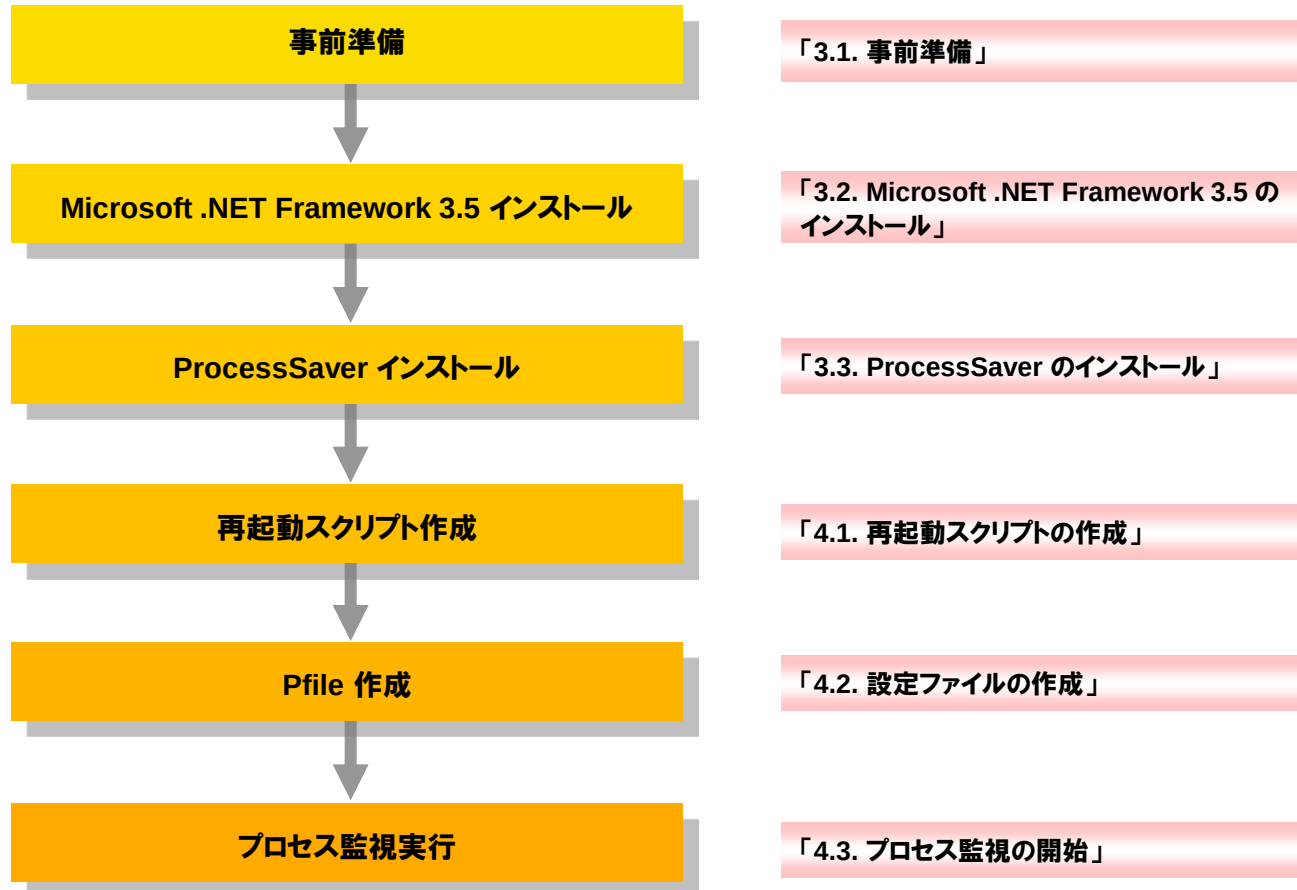
本書では下記のような監視の設定方法を記述します。

ProcessSaver で iexplore.exe(Internet Explorer プロセス)の消滅監視および消滅時の自動再開

2. プロセス監視の流れ

プロセス監視設定およびプロセス監視確認について

● プロセス監視設定



2. (続き)

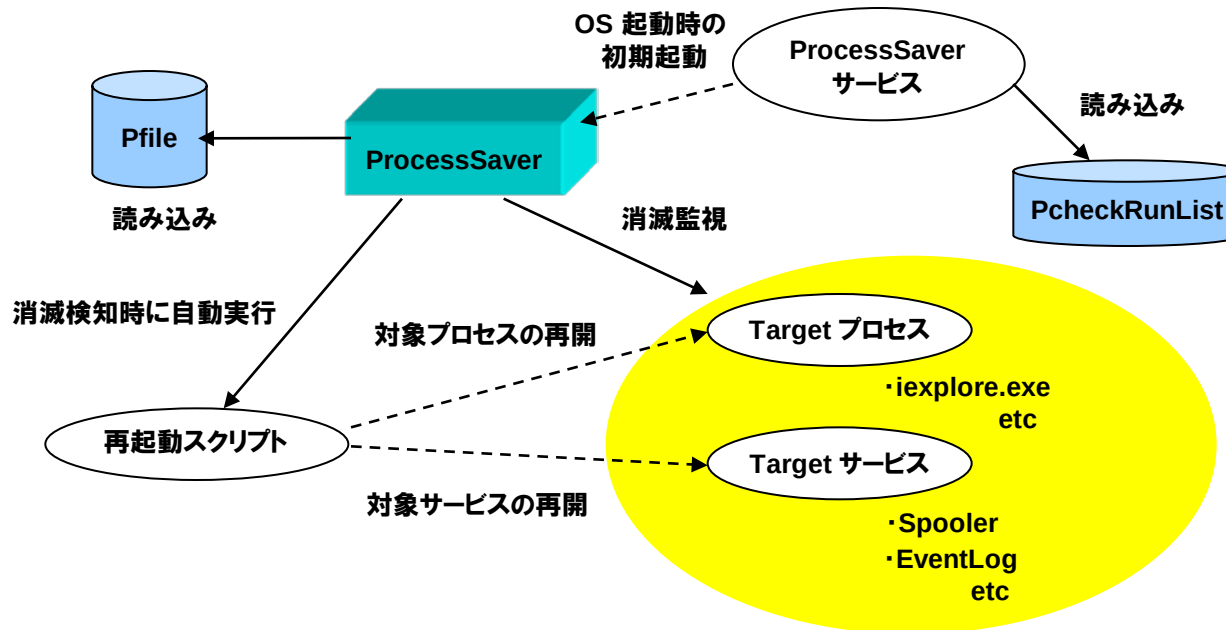
● プロセス監視設定



2.1. プロセス監視の仕組み

一般的なプロセス監視の仕組みについて

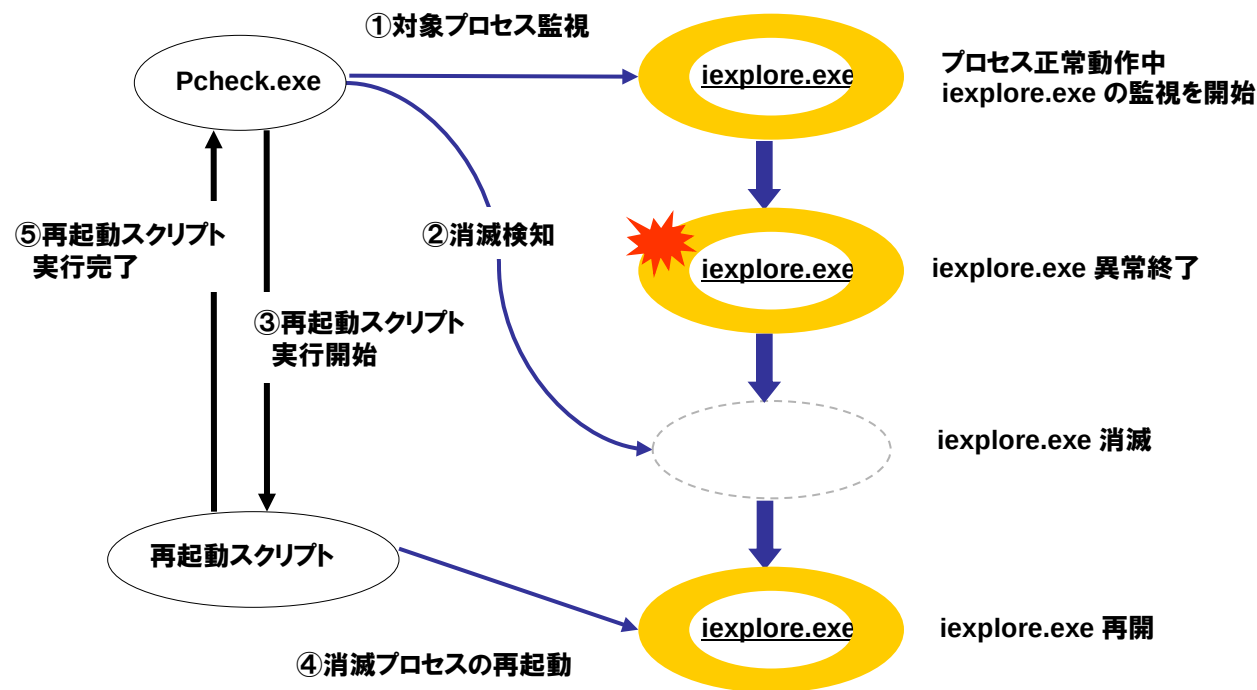
ProcessSaver の一般的なプロセス監視の仕組みは下記の図のようになります。



2.1. (続き)

本書で記述する iexplore.exe (Internet Explorer プロセス) の監視は下記のような流れになります。

- ① プロセス監視を実行する Pcheck.exe を起動します。
- ② 監視対象プロセスの存在を一定間隔でチェックし、プロセスの消滅を検知します。
- ③～⑤ 指定された再起動スクリプトにより、監視対象プロセスを再起動します。



※サービス監視についても同様の流れになります。

3. インストール

インストールについて

インストールおよび各種設定／操作方法の詳細については、

- 「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows インストールガイド」
- 「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows ユーザーズガイド(機能編)」
- 「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows ユーザーズガイド(コンソール編)」
- 「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows ユーザーズガイド(コマンド編)」
- 「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows リリースメモ」
- 「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows クイックリファレンス」
- 「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 for Windows 導入ガイド」

を参照してください。

※ すでに本製品をインストール済みの場合は、次のステップ「4. 監視の設定」へお進みください。

3.1. 事前準備

ProcessSaver 導入の事前準備について

- (1) 本製品が含まれるインストール媒体を用意します
- (2) x86 および x86_64 対応 CPU 搭載サーバであることを確認します

- (3) OS のバージョンを確認します

Microsoft Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition Service Pack 2

Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition Service Pack 2

Windows Server 2008 Enterprise (Service Pack 2 を含む)

Windows Server 2008 Standard (Service Pack 2 を含む)

Windows Server 2008 R2 Enterprise (Service Pack 1 を含む)

Windows Server 2008 R2 Standard (Service Pack 1 を含む)

Windows Server 2012 Standard

Windows Server 2012 Datacenter

Windows Server 2012 R2 Standard

Windows Server 2012 R2 Datacenter

本書では、Microsoft Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition Service Pack 2 での設定および確認方法を記述します。

- (4) Cドライブに 50MB 以上のディスクの空き容量があることを確認します

3.2. Microsoft .NET Framework 3.5 のインストール

Microsoft .NET Framework 3.5 のインストールについて

- Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1
 - dotnetfx35.exe
- Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack
 - 32bit : dotnetfx35langpack_x86ja.exe

- 注意**
- Microsoft .NET Framework のバージョンは、必ず 3.5 を使用してください。それ以外のバージョンは、現在サポートしていません。
 - Microsoft .NET Framework 3.5 をインストールしていなければ、ProcessSaver はインストールできません。
 - Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack につきましては、32bitOS 用と 64bitOS 用の 2 種類を同梱しておりますのでそれぞれの環境に合わせてインストールを実施してください。
 - 環境により、Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1 をインストールすると、自動で Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack がインストールされる場合があります。

3.3. ProcessSaverのインストール

ProcessSaver のインストールについて

(1) ProcessSaver をインストールします

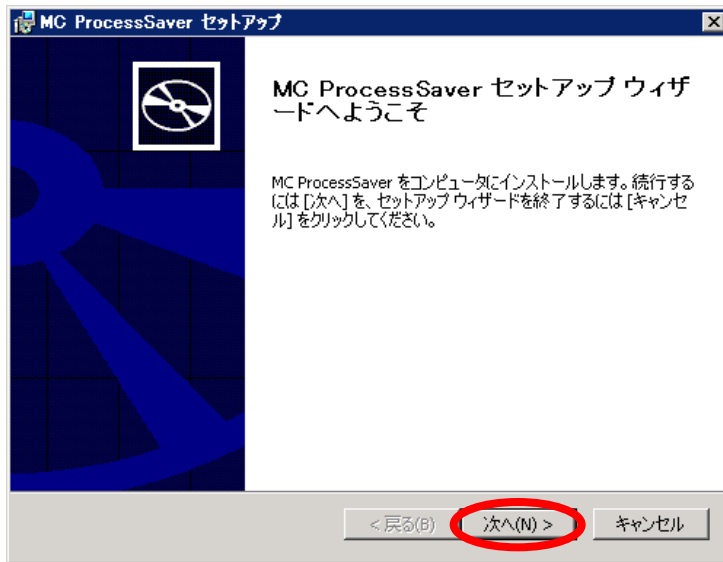


図1 インストーラ準備画面

- ① 本製品が含まれるインストール媒体を CD/DVD ドライブに挿入してください。
- ② インストール媒体の【Setup.exe】を実行してください。左記画面が表示されますので、次へ (N) を押してください。

3.3. (続き)

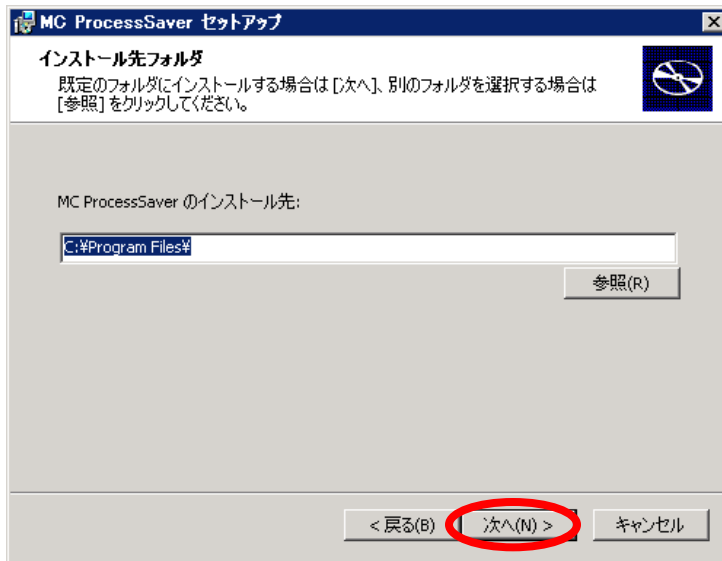


図2 インストール先のフォルダ表示画面

③ インストール先のフォルダを指定します。

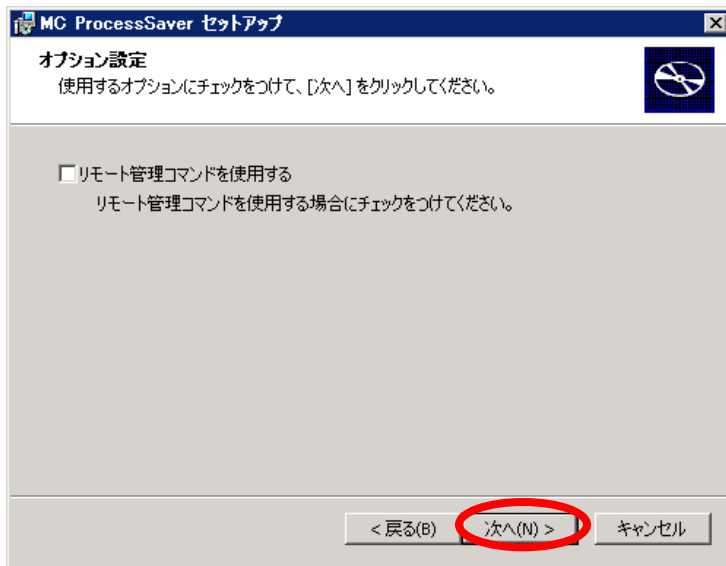
デフォルトのまま、次へ (N) を押してください。

OS により、インストールフォルダのデフォルトは変更されます。

32bit OS : 【 C:\Program Files 】

64bit OS : 【 C:\Program Files(x86) 】

3.3. (続き)



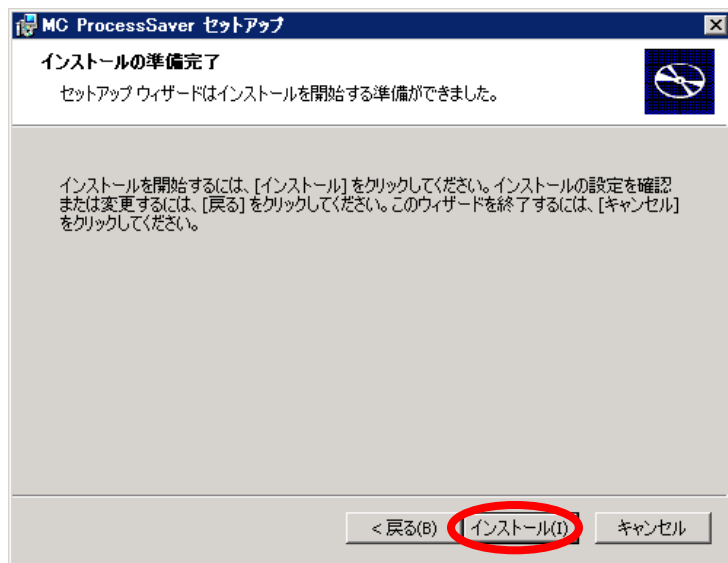
④ オプションを指定します。

デフォルトのまま **次へ (N)** を押してください。

リモート管理コマンドについては、
「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 1.2 ユーザーズガイド(リモート制御機能)」を参照してください。

図3 オプション設定画面

3.3. (続き)



⑤ **インストール (I)** を押してインストールを開始してください。

図4 インストール開始画面

3.3. (続き)

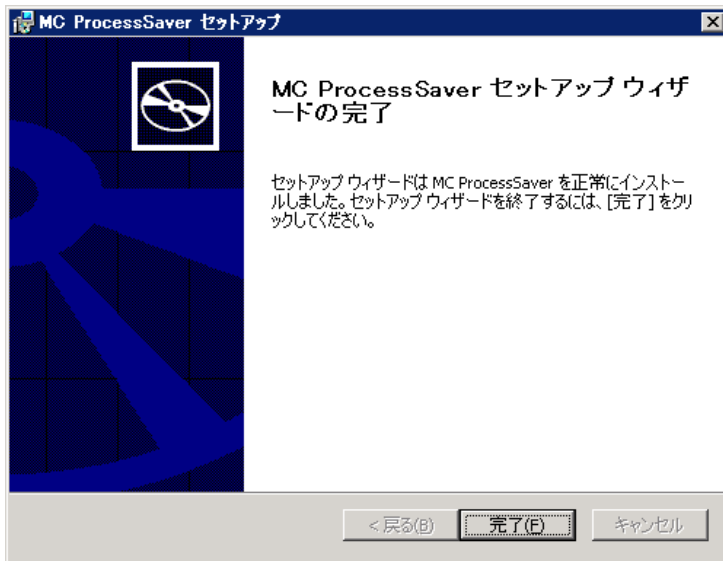


図5 インストール完了画面

- ⑥ ProcessSaver のインストールが完了すると、左記画面が表示されます。

完了 (F) を押して画面を終了してください。

以上で、ProcessSaver のインストールは終了です。

3.3. (続き)

ProcessSaver のインストール後の確認

(2) ProcessSaver インストール後の確認をします

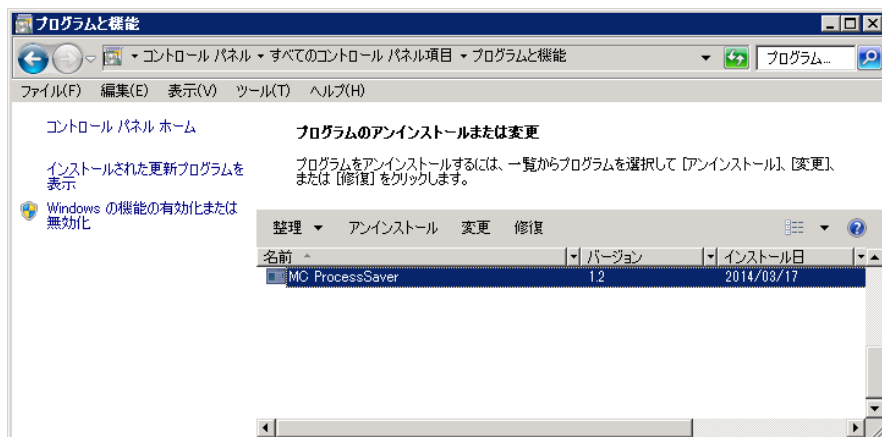


図6 『プログラムと機能』

『プログラムと機能』で、本製品がインストールされていることを確認してください。

スタートメニューから
[コントロール パネル] →
[プログラムと機能]
を選択すると左記画面が表示されます。

一覧に [MC ProcessSaver] が登録されていることを確認してください。

4. 監視の設定

監視の設定について

再起動スクリプトの作成、設定ファイルの作成、プロセス監視の開始の説明を行います。

4.1. 再起動スクリプトの作成

再起動スクリプトの作成について

再起動スクリプトを作成します。

再起動スクリプトは、Pfile 内に指定され、監視対象プロセスの消滅を検知した場合に実行されます。
再起動スクリプトは、実行可能ファイル(batch.exe ファイルなど)を指定することができます。
本書では、再起動スクリプトを batch ファイルにて作成する方法を記述します。

テキストエディタを起動します。
本書では、メモ帳を使用します。

スタートメニューから
[すべてのプログラム (P)] → [アクセサリ] → [メモ帳]
を選択してください。

4.1. （続き）

テキストエディタの編集

（１）テキストエディタにて下記のように編集します

・iexplore.exe(Internet Explorer プロセス)の再起動スクリプト

```
@echo off → ①
explorer http://localhost → ②
:end
exit → ③
```

① 標準出力を停止させます。

（標準出力停止のための定型文 “@echo off” を記述します。）

② プロセスを起動します。

（コマンド実行時にスクリプトを停止させないように注意してください。

その他のプロセスを起動する場合は、“Start” コマンドを使用すると良いでしょう。）

③ exit を記述します。

（再起動スクリプトは、バックグラウンドで実行されます。無用なプロセスが残らないよう
“exit” で終了させてください。）

（２）作成した再起動スクリプトを保存します

下記のとおりファイルを保存してください。

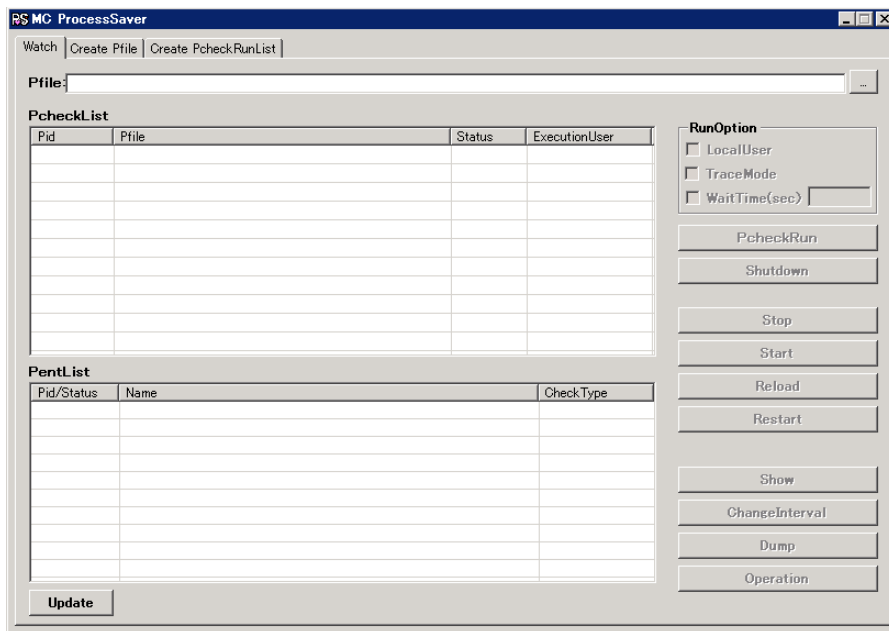
- ・保存フォルダ : “C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile”
- ・ファイル名 : Restart_iexplore_Process.bat
- ・ファイルの種類 : すべてのファイル
- ・文字コード : ANSI

4.2. 設定ファイルの作成

設定ファイルの作成について

ProcessSaver で使用する設定ファイルを作成します。

(1) ProcessSaver コンソールを起動します



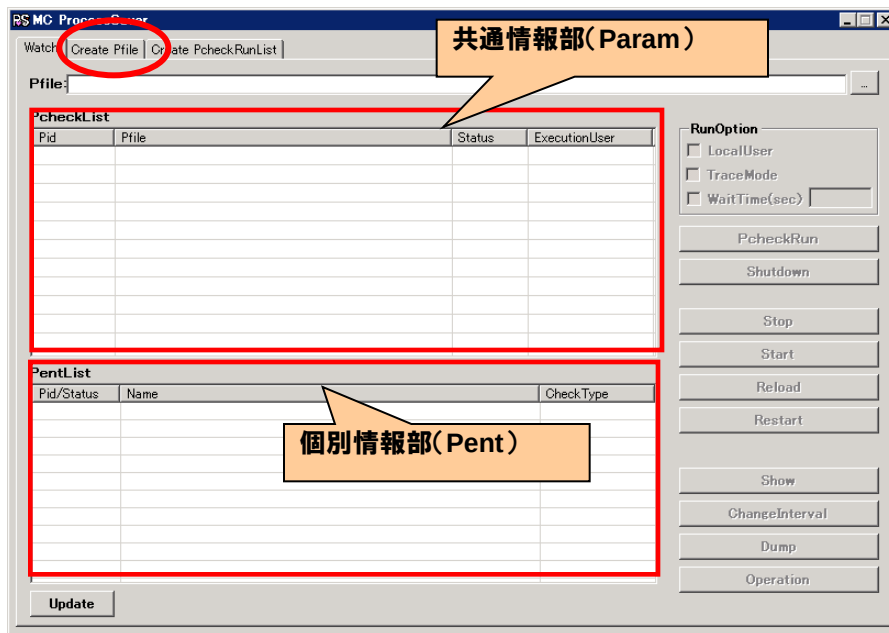
スタートメニューから
[すべてのプログラム (P)] → [HA] →
[ProcessSaver] →
[ProcessSaver Console]
を選択してください。

左記画面が表示されます。

図7 『Watch』

4.2. (続き)

(2)『Create Pfile』に移動します



[Create Pfile] タブを選択してください。

図8 『Create Pfile』

4.2. （続き）

共通情報部(Param)の設定

（１）共通情報部(Param)を設定します

- ① MsgCheckInterval を設定してください。
※ ここではデフォルト値を使用するため変更は不要です。

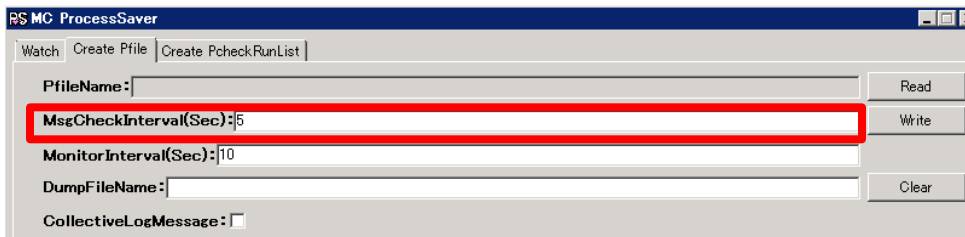
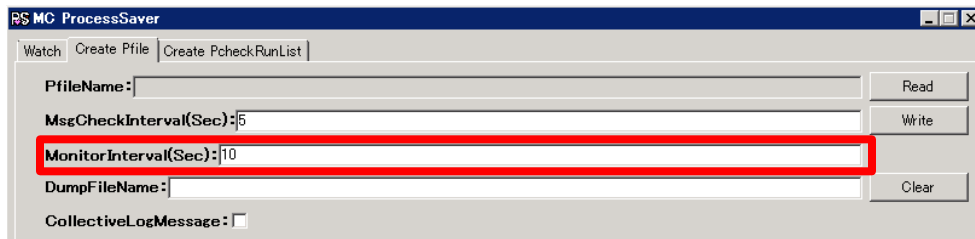


図9 『Create Pfile』Param 部

4.2. (続き)

② MonitorInterval を設定してください。

※ ここではデフォルト値を使用するため変更は不要です。



The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "RS MC ProcessSaver". It has three tabs: "Watch", "Create Pfile", and "Create PcheckRunList". The "Create Pfile" tab is selected. Inside the dialog, there are several input fields and buttons. The "MonitorInterval(Sec):" field is highlighted with a red rectangle and contains the value "10". Other fields include "PfileName:", "MsgCheckInterval(Sec):5", "DumpFileName:", and "CollectiveLogMessage:". Buttons on the right include "Read", "Write", and "Clear".

図10 『Create Pfile』Param 部

4.2. (続き)

③ DumpFileName を設定してください。

DumpFileName に【Pfile_!explore_Process.dmp】を入力してください。

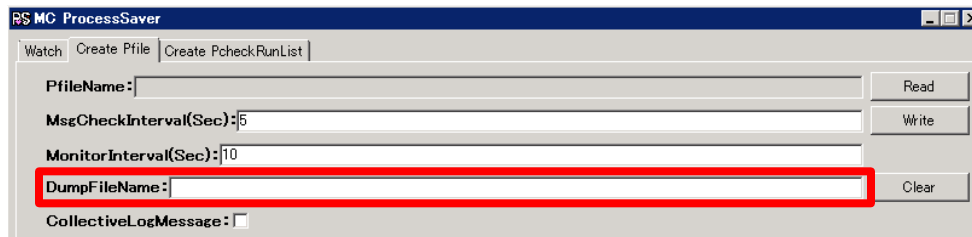


図11 『Create Pfile』Param 部

4.2. (続き)

- ④ CollectiveLogMessage を設定してください。
※ ここではデフォルト値を使用するため変更は不要です。

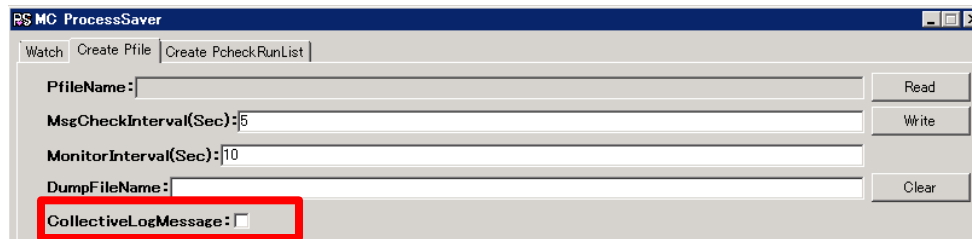
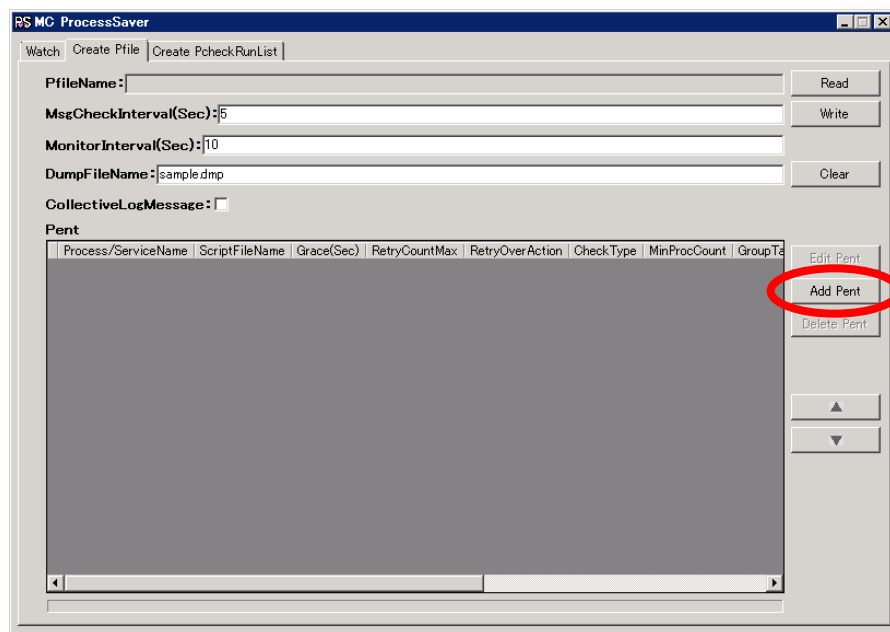


図12 『Create Pfile』Param 部

4.2. (続き)

個別情報部(Pent)の設定

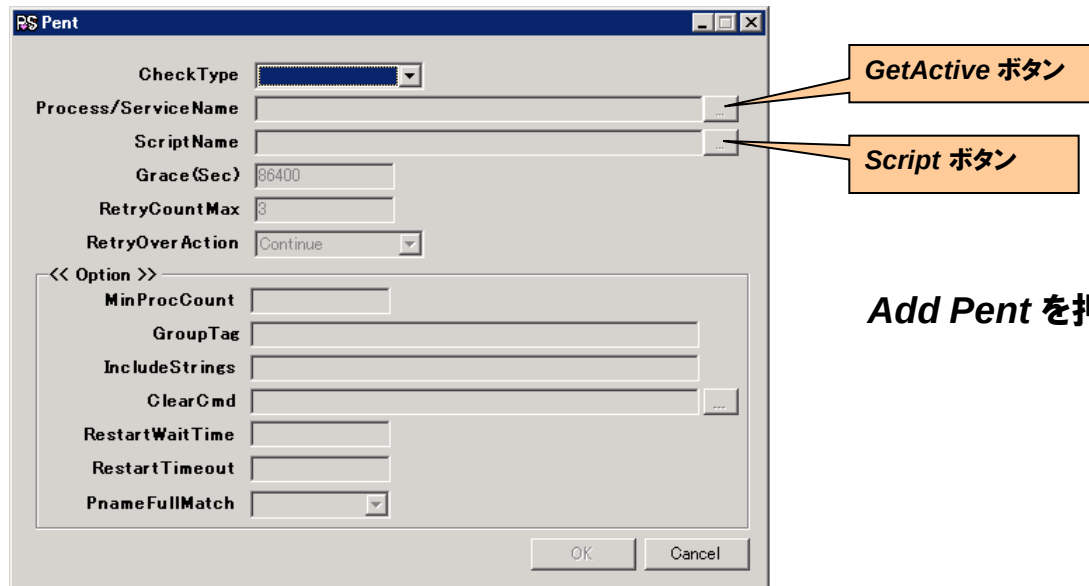
(2) 個別情報部(Pent)を設定します



Add Pent を押して『Pent』を表示してください。

図13 『Create Pfile』

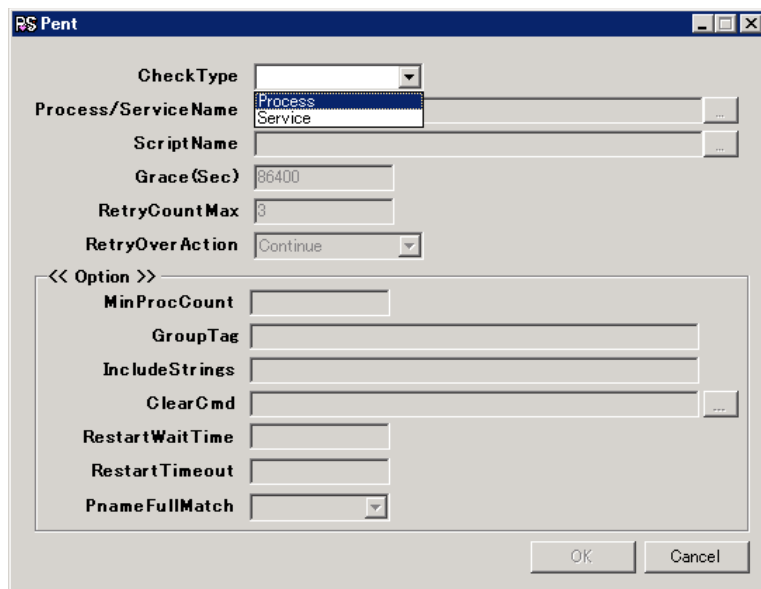
4.2. (続き)



Add Pent を押すと左記画面が表示されます。

図14 『Pent』

4.2. (続き)



① CheckType を設定してください。

CheckType のプルダウンリストから
Process を選択してください。

図15 『Pent』

4.2. (続き)

② Process/ServiceName を設定してください。

GetActive を押して『ProcessActiveList』の iexplore.exe を選択し、OK を押してください。

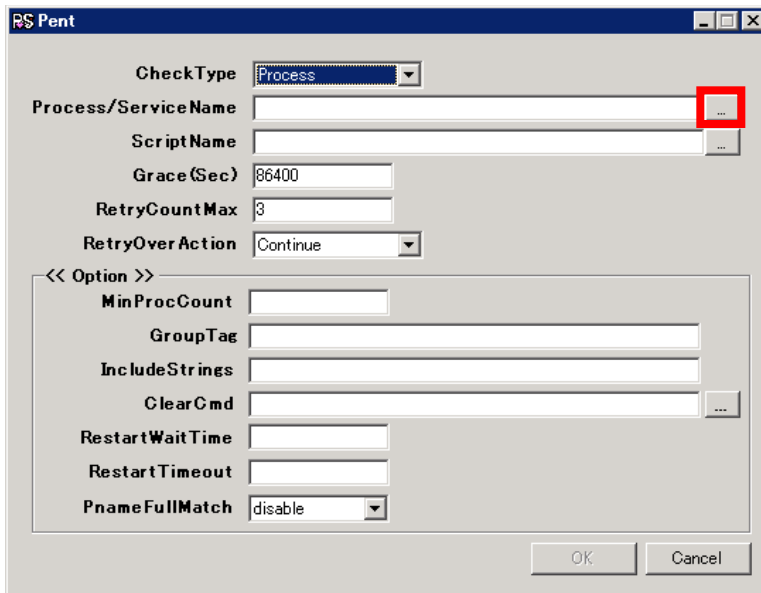


図16 『Pent』

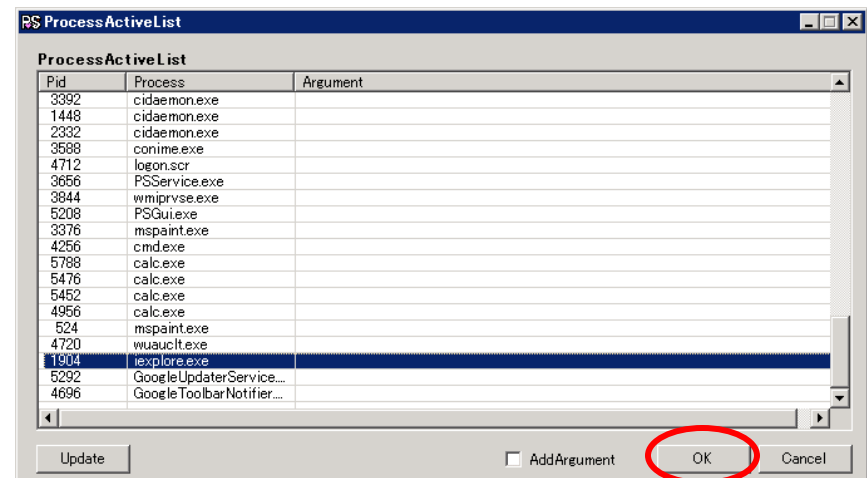


図17 『ProcessActiveList』

4.2. (続き)

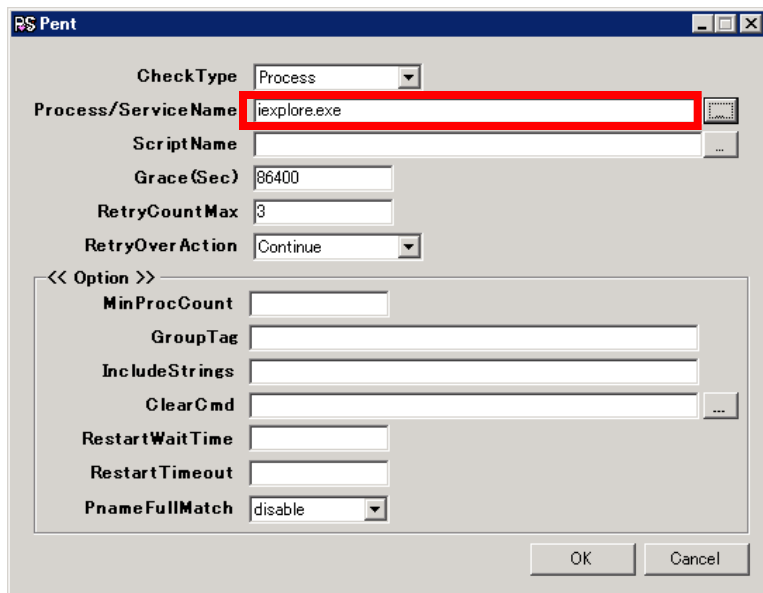


図18 『Pent』

－ 補足 －

**Process/ServiceName に
直接プロセス名(iexplore.exe)を
入力することも可能です。**

4.2. (続き)

③ ScriptName を設定してください。

Script を押して「4.1. 再起動スクリプトの作成」で作成した再起動スクリプト
【Restart_!xplorer_Process.bat】を選択してください。

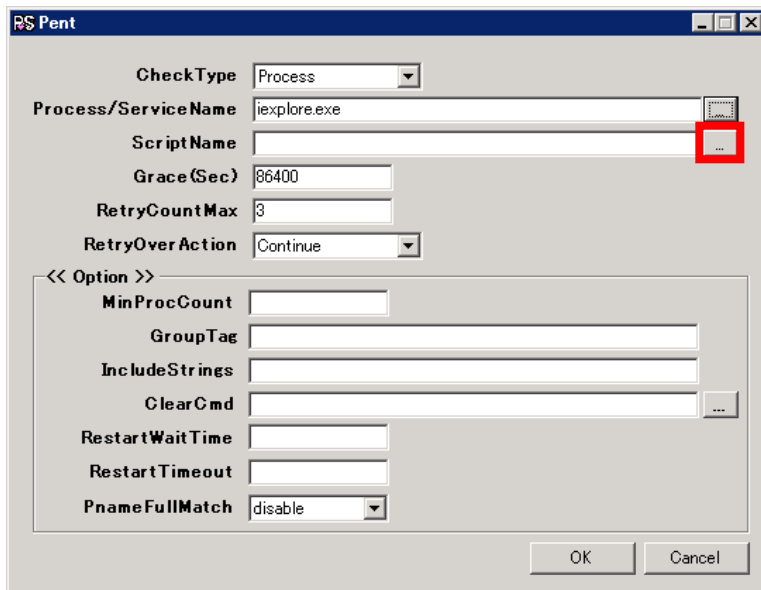


図19 『Pent』

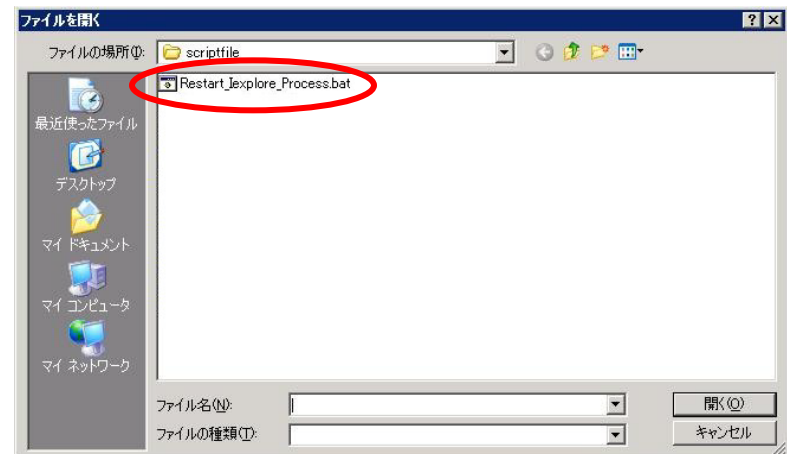


図20 『ファイルを開く』

4.2. (続き)

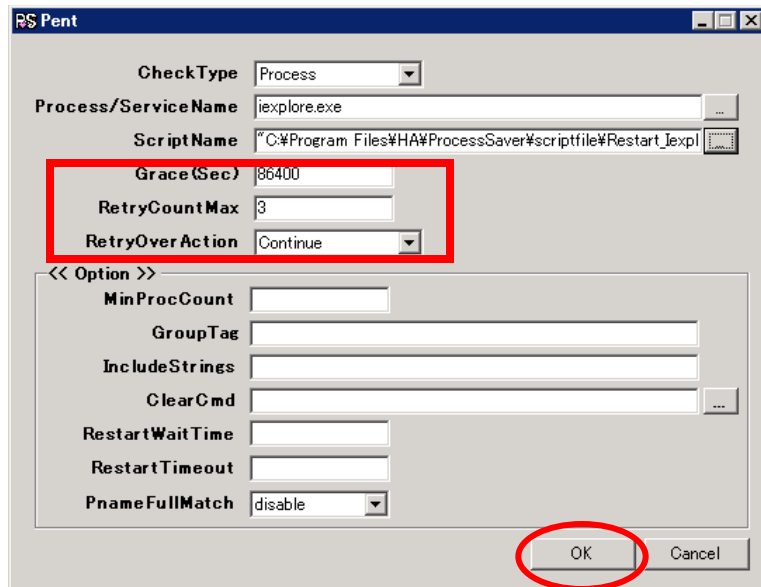


図21 『Pent』

④ Grace を設定してください。

※ ここではデフォルト値を使用するため変更は不要です。

⑤ RetryCountMax を設定してください。

※ ここではデフォルト値を使用するため変更は不要です。

⑥ RetryOverAction を設定してください。

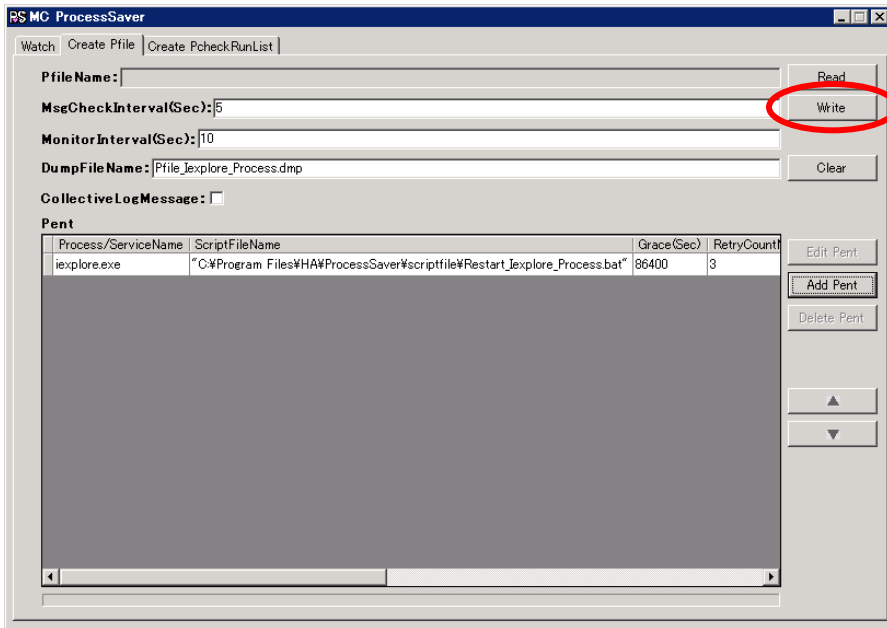
※ ここではデフォルト値を使用するため変更は不要です。

左記のとおり設定内容を確認し、OK を押してください。

4.2. (続き)

Pfile の保存

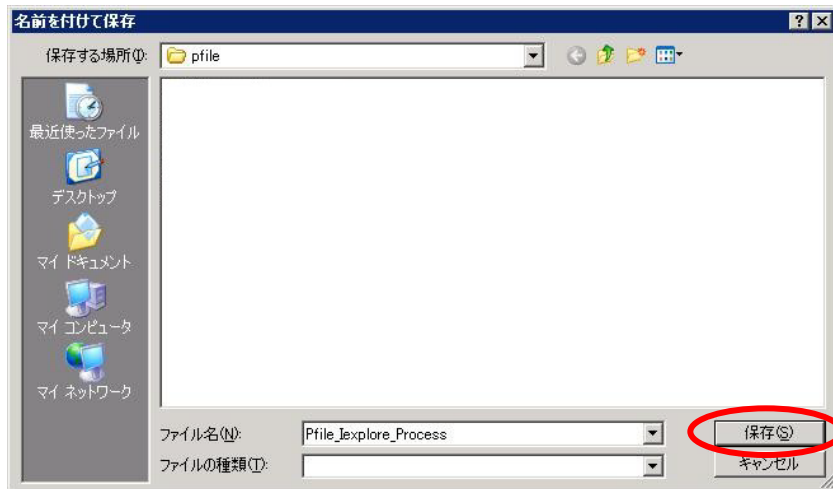
(3) Pfile を保存します



- ① 『Create Pfile』で設定した内容を確認し、**Write** を押して『名前を付けて保存』を表示してください。

図22 『Create Pfile』

4.2. (続き)



② [ファイル名] に【Pfile_Explore_Process】を入力し、**保存(S)** を押して Pfile を保存してください。

図23 『名前を付けて保存』

4.3. プロセス監視の開始

監視の開始について

ProcessSaver で監視を開始します。

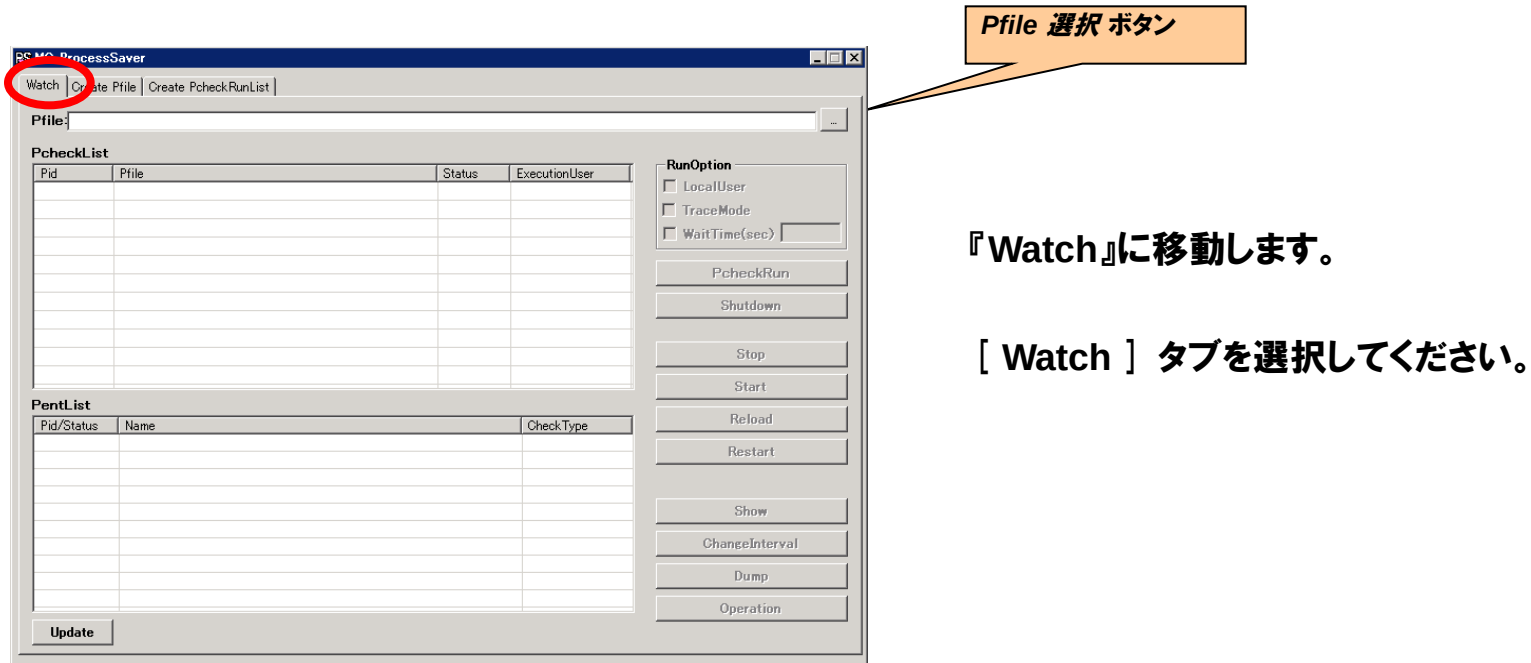


図24 『 Watch 』

4.3. (続き)

(1) Internet Explorer を1つだけ起動します

スタートメニューから

[すべてのプログラム(P)] → [Internet Explorer]

を選択してください。

※ 複数起動している場合は、1つだけ起動させた状態にし、残りはすべて終了してください。

(2) 監視を開始する Pfile を選択します

Pfile 選択 を押して「4.2. 設定ファイルの作成」で作成した Pfile【Pfile_!explore_Process】を選択してください。

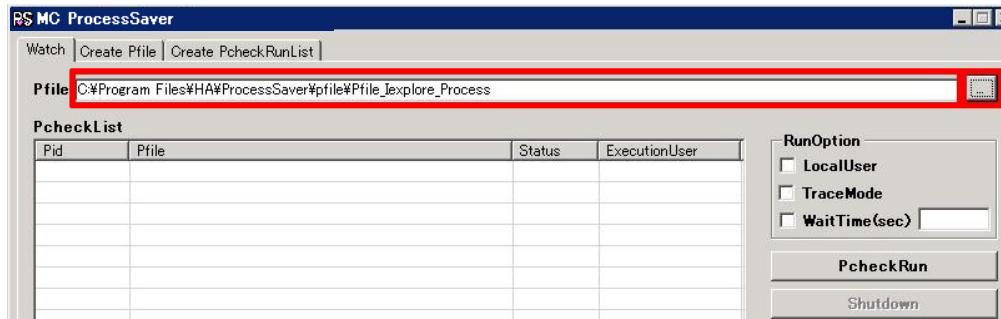


図25 『Watch』

4.3. (続き)

(3) Pcheck を起動します

選択した Pfile の監視を開始します。

RunOption の *LocalUser* にチェックを入れ、*PcheckRun* を押してください。

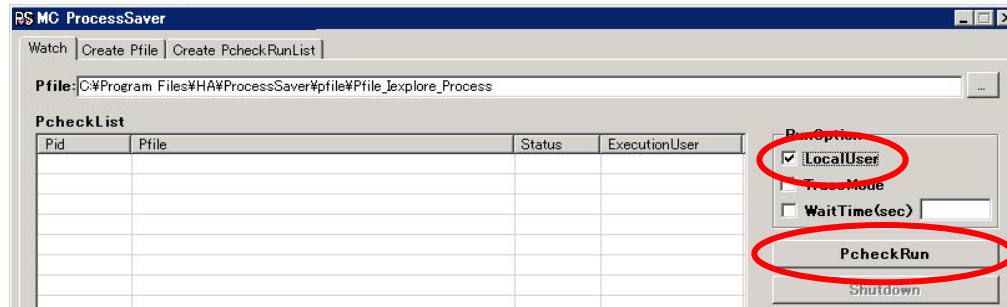


図26 『Watch』

4.3. (続き)

下記画面が表示されますので、OK を押してプロセスの監視を開始してください。

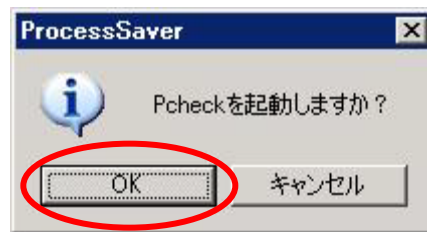


図27 PcheckRun 確認画面

5. 監視の確認

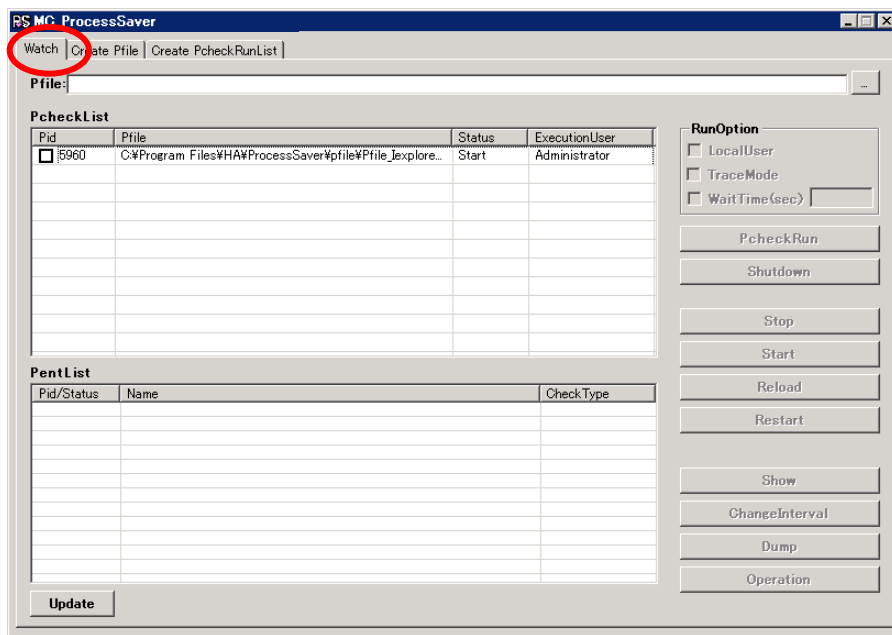
監視の確認について

監視状態、消滅検知と再起動、プロセス再起動、RetryOver の状態、プロセス監視の再開と確認について説明を行います。

5.1. 監視状態の確認

監視状態の確認について

ProcessSaver の監視状態を確認します。



『Watch』に移動してください。

図28 『Watch』

5.1. (続き)

Pcheck の起動確認

(1) Pcheck の起動を確認します

PcheckList の内容を確認し、

“C:¥Program Files¥HAW¥ProcessSaver¥pfile¥Pfile_!explore_Process”
が表示されていることを確認してください。

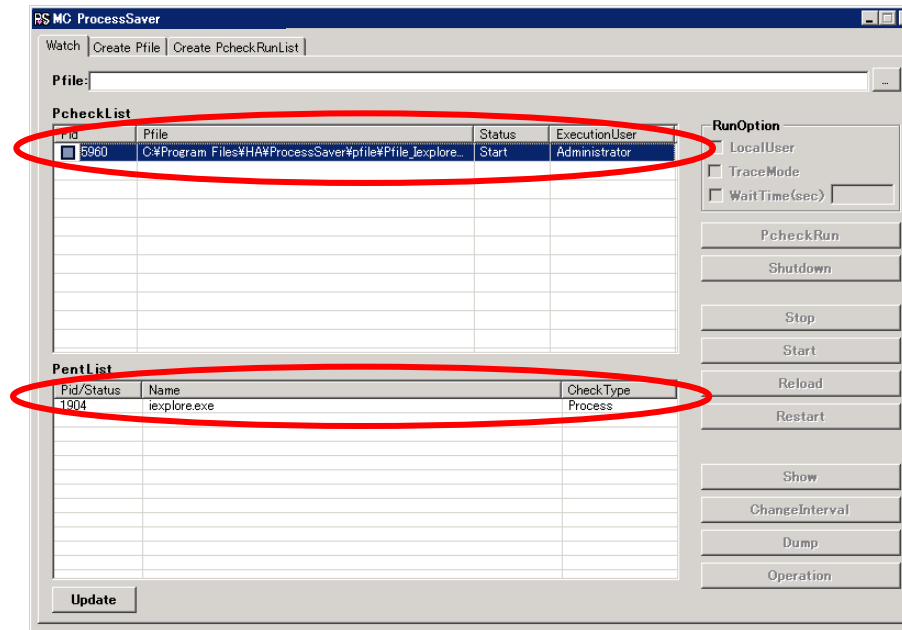


図29 『Watch』

5.1. (続き)

監視情報の詳細確認

(2) 監視情報の詳細を確認します

- ① PcheckList の
“C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥Pfile_!explore_Process”
にチェックを入れてください。

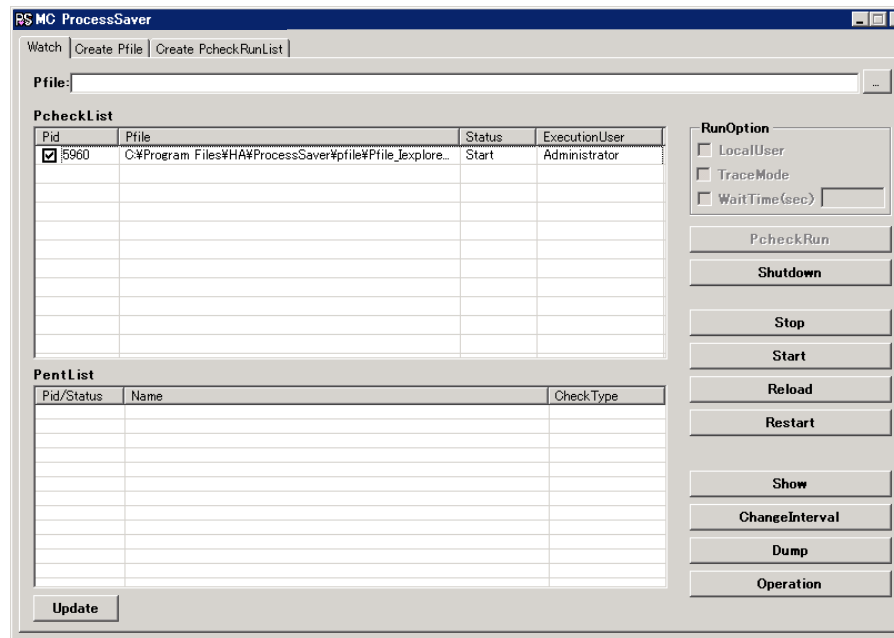


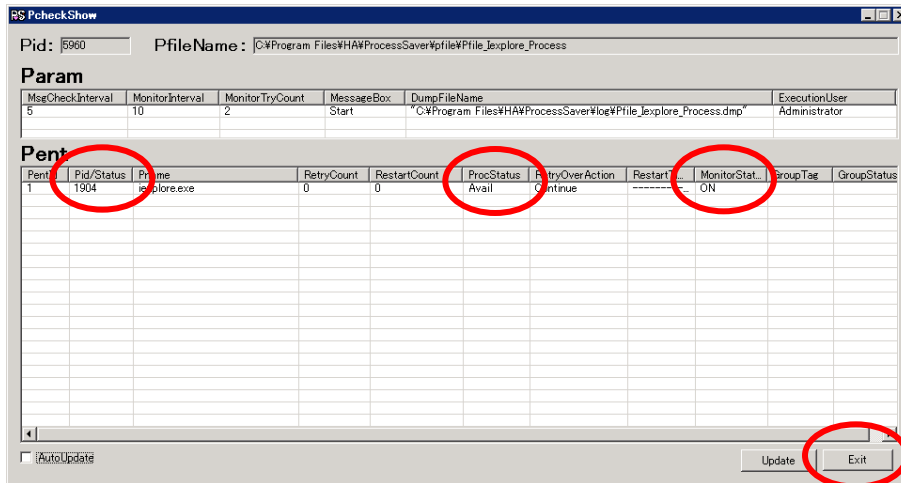
図30 『Watch』

- ② Show を押してください。

5.1. (続き)

監視状況の詳細が表示されます。

詳細が下記のようにになっていることを確認してください。



Pid/Status : xxx(実際に割り振られている
Pidが表示されます)

ProcStatus : Avail

MonitorStatus : ON

図31 『Pcheck Show』

③ **Exit** を押して『Pcheck Show』を閉じてください。

5.2. 監視対象プロセスの消滅検知および再起動の確認

消滅検知と再起動の確認について

ProcessSaver による消滅検知と再起動を確認します。

監視対象プロセスを停止させ、停止を検知して再開されることを確認します。

(1) プロセスを終了(消滅)させます

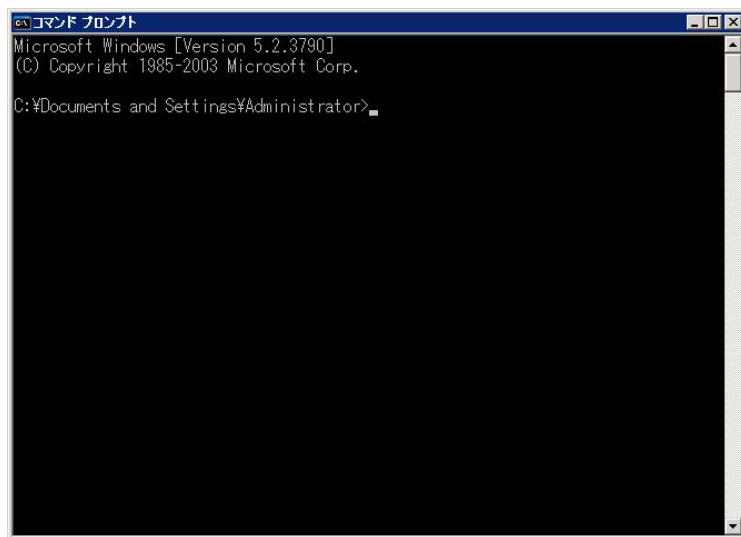


図32 『コマンドプロンプト』

① スタートメニューから

[すべてのプログラム (P)] → [アクセサリ] →
[コマンドプロンプト]

を選択してください。
左記画面が表示されます。

5.2. (続き)

- ② tasklist コマンドを実行し、監視対象プロセスの起動確認と Pid の確認を行います。

```
tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

- 例 -

```
C:\> tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

イメージ名	PID	セッション名	セッション#	メモリ使用量
iexplore.exe	1904	Console	0	45,824 K

```
C:\>
```

5.2. （続き）

③ taskkill コマンドを実行し、監視対象プロセスを強制終了させます。

taskkill /F /PID XXX（XXX は、②で確認した Pid を入力してください。）

- 出力例 -

```
C:¥ > taskkill /F /PID 1904
```

```
成功: PID 1904 のプロセスは強制終了されました。
```

```
C:¥ >
```


5.2. (続き)

プロセス再起動の確認

(2) プロセスの再起動を確認します。

約10秒後(※)、iexplore.exe が再開されていることを確認します。

```
tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

- 出力例 -

```
C:\> tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

イメージ名	PID	セッション名	セッション#	メモリ使用量
iexplore.exe	6833	Console	0	45,824 K

```
C:\>
```

※ ProcessSaver は Pfile の Param に設定されている MonitorInterval 間隔でチェックしています。
今回の設定では 10 秒ごとにプロセスの存在をチェックしているため、前回のチェック時から 10 秒後にプロセスの消滅を検知することになります。

5.2. (続き)

(3) イベントログにて監視対象プロセスの消滅検知と再起動が正常に行われたことを確認します

スタートメニューから

[コントロールパネル] → [管理ツール] → [イベントビューア]
を選択してください。

『イベントビューア』の [アプリケーション] を選択してください。
次ページの★1、★2 のメッセージ内容を確認します。

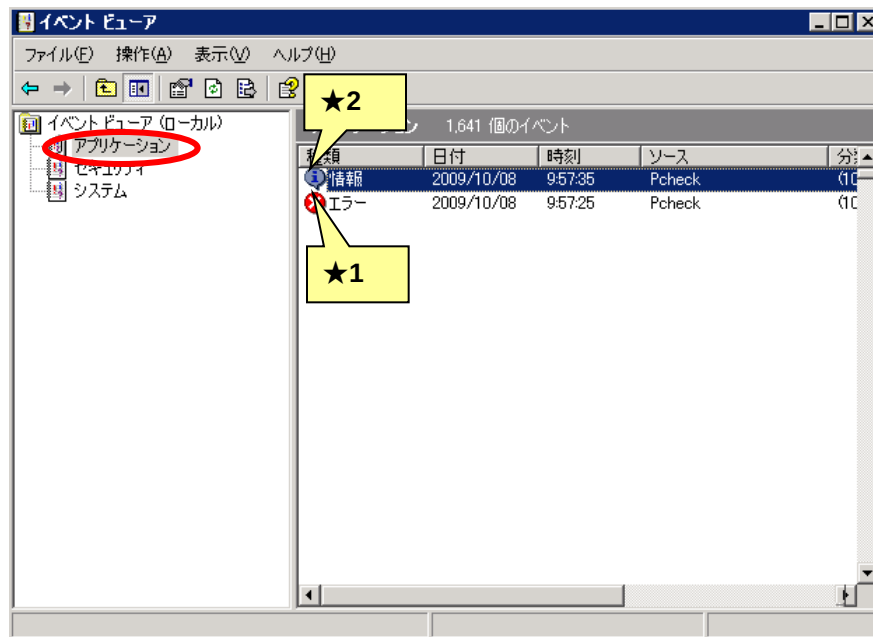


図33 『イベントビューア』

5.2. (続き)

★1 iexplore.exe の再起動スクリプトが実行したメッセージ

- 出力例 -

ソース : Pcheck

種類 : エラー

説明 : PS07E006 : 再起動スクリプトを実行します。

("C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥Restart_!explore_
Process.bat")(Pid:428)

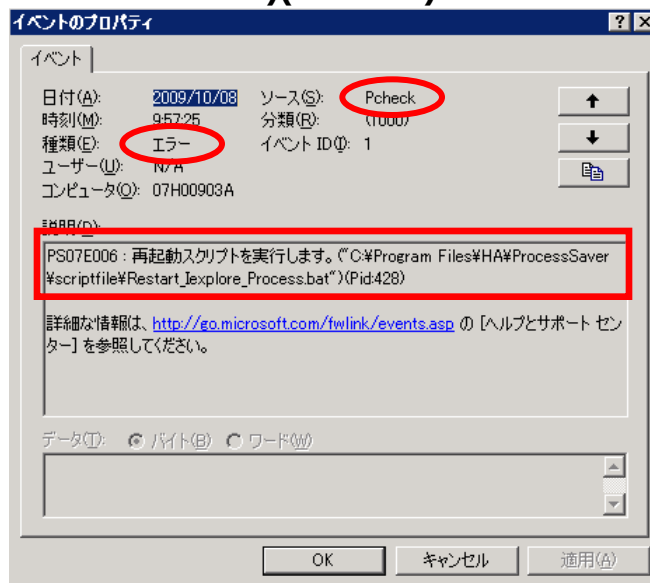


図34 『イベントのプロパティ』

※ 説明に記述されている(Pid:428)は、Pcheck.exe(監視プログラム)の Pid です。

5.2. (続き)

★2 iexplore.exe の再開を確認し開始したメッセージ

- 出力例 -

ソース : Pcheck

種類 : 情報

説明 : 監視対象プロセス(iexplore.exe, Pid:3512)は稼動状態です。(Pid:428)

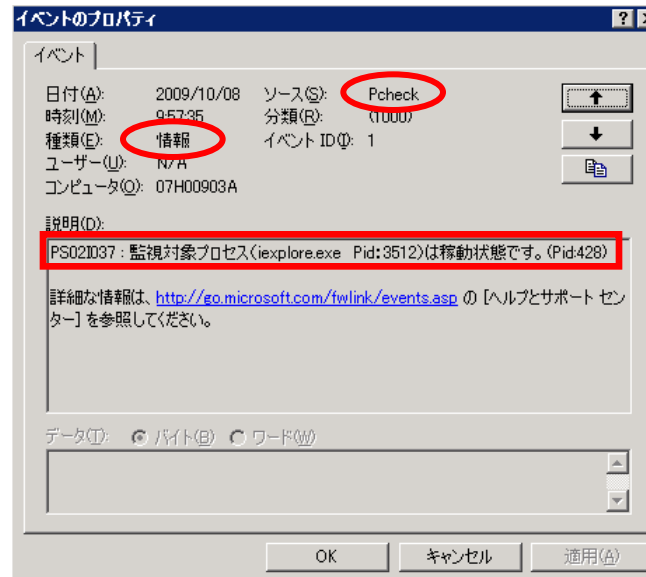


図35 『イベントのプロパティ』

※ 説明に記述されている(Pid:428)は、Pcheck.exe(監視プログラム)の Pid です。

5.3. RetryOver の確認

RetryOver の状態確認について

システムの状態によっては、監視対象プロセス消滅／停止を検知した後、再起動／再開することができない場合があります。

RetryOver の状態を確認します。

(1) プロセスの消滅と再起動を繰り返し、RetryOver を発生させます

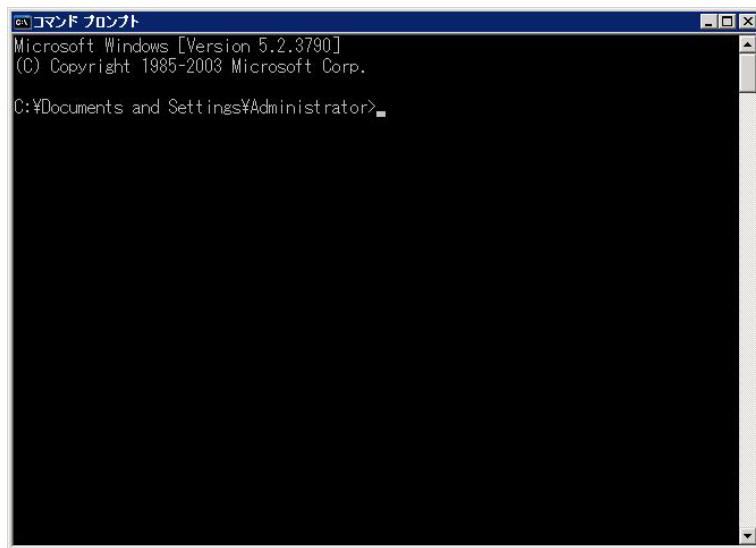


図36 『コマンドプロンプト』

① スタートメニューから

[すべてのプログラム (P)] → [アクセサリ] →
[コマンドプロンプト]

を選択してください。
左記画面が表示されます。

5.3. (続き)

- ② tasklist コマンドを実行し、監視対象プロセスの Pid を確認します。

```
tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

- 例 -

```
C:\> tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

イメージ名	PID	セッション名	セッション#	メモリ使用量
iexplore.exe	5960	Console	0	45,824 K

```
C:\>
```

5.3. （続き）

③ taskkill コマンドを実行し、監視対象プロセスを強制終了させます。

taskkill /F /PID XXX（XXX は、②で確認した Pid を入力してください。）

- 出力例 -

```
C:¥> taskkill /F /PID 5960
```

```
成功: PID 5960 のプロセスは強制終了されました。
```

```
C:¥>
```

5.3. （続き）

④ 10 秒程度待ち合わせる。

※ Grace 値に指定された時間内に Pfile に設定した RetryCount(3 回)を超えた場合に RetryOver となり、監視は終了します。

次回リトライまでに Grace 値を超えた場合、RetryCount はクリアされます。

⑤ 手順 ② ～ ④ を 4 回繰り返します。

5.3. (続き)

(2) tasklist コマンドを実行し iexplore.exe が起動されていないことを確認します

```
tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

- 出力例 -

```
C:¥ > tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

```
情報: 指定された条件に一致するタスクは実行されていません。
```

```
C:¥ >
```

5.3. (続き)

(3) 監視対象プロセスが RetryOver となったことを ProcessSaver コンソール で確認します

① 『Watch』に移動してください。

PcheckList の

“C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\Pfile_1explore_Process”

にチェックを入れてください。

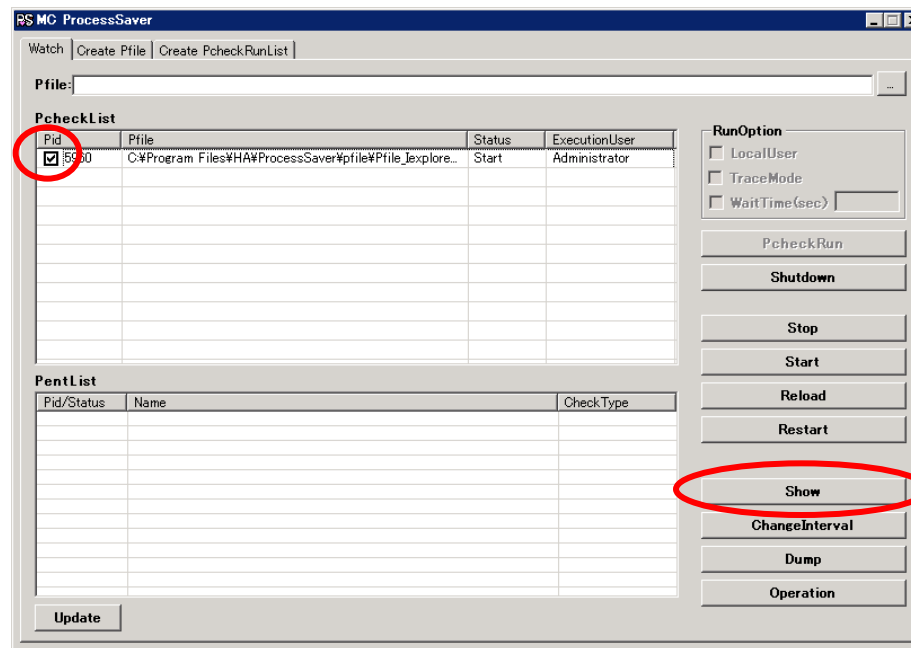


図37 『Watch』

② Show を押してください。

5.3. (続き)

③『Pcheck Show』が表示されます。

ProcStatus が [RetryOver] になっていることを確認してください。

※ 監視対象プロセスが RetryOver になったため、対象の行が赤く表示されています。

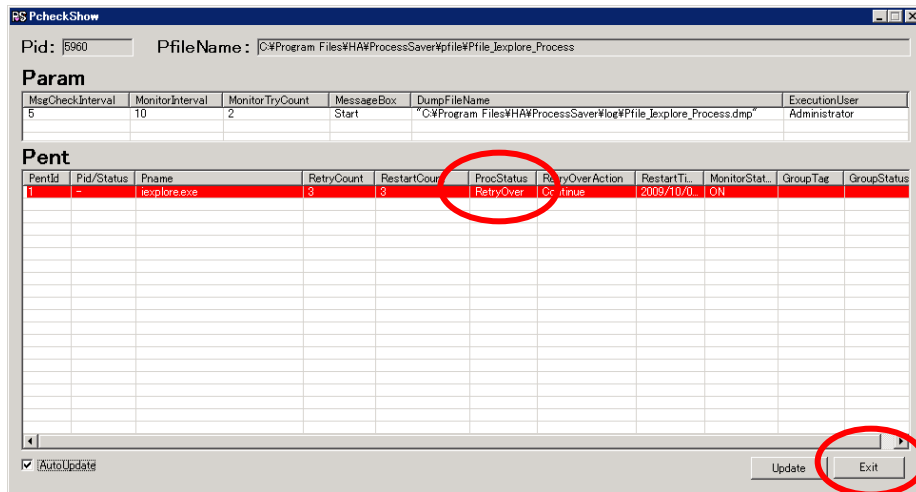


図38 『Pcheck Show』

④ **Exit** を押して『Pcheck Show』を閉じてください。

5.3. (続き)

(4) イベントログにて監視対象プロセスが RetryOver になったことを確認します。

スタートメニューから

[コントロールパネル] → [管理ツール] → [イベントビューア]

を選択してください。

『イベントビューア』の [アプリケーション] を選択してください。

下記画面の ★ のメッセージ内容を確認します。

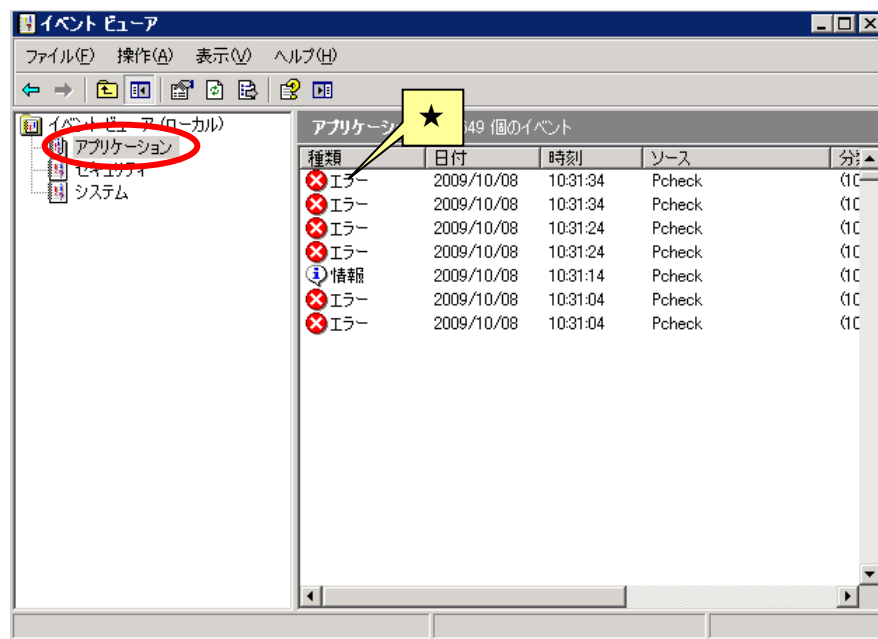


図39 『イベントビューア』

5.3. (続き)

★ iexplore.exe の監視が RetryOver したメッセージ

- 出力例 -

ソース : Pcheck

種類 : エラー

説明 : PS07E002 : (iexplore.exe)RetryOver:continue.(Pid:428)

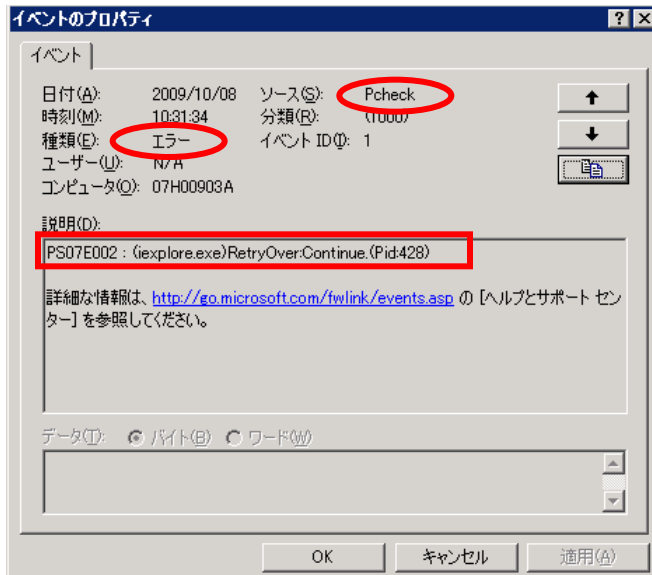


図40 『イベントのプロパティ』

※ RetryOver となった場合の処理は、RetryOverAction の指定によって異なります。

今回の場合は、Continue を指定しているため監視を終了しますが、Pcheck.exe 自体は終了しません。

RetryOverAction には下記を指定することができます。

Continue : RetryCountMax に達したプロセスを監視対象からはずします。

Exit : クラスタ環境の設定により、サーバ切り替えにつながる終了処理を行います。

Shutdown : Pcheck.exe を終了します。

5.4. プロセス監視の復旧

プロセス監視の再開について

「5.3. RetryOver の確認」で RetryOver となった場合、プロセス監視は終了します。
再度監視を始めるには下記の手順を行います。

(1) iexplore.exe プロセスの起動と確認をします。

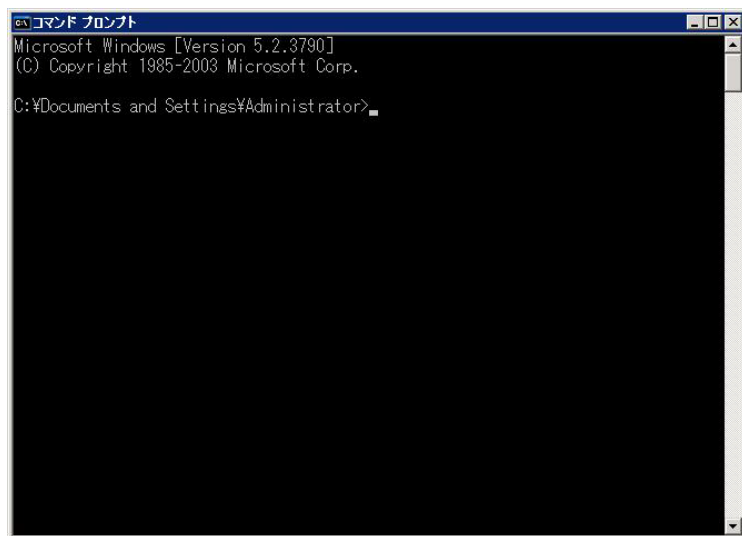


図41 『コマンドプロンプト』

① スタートメニューから

[すべてのプログラム (P)] → [アクセサリ] →
[コマンドプロンプト]

を選択してください。
左記画面が表示されます。

5.4. （続き）

- ② 下記のコマンドを実行し、iexplore.exe を起動指定してください。
Internet Explorer の画面が表示されます。

```
C:¥ > explorer http://localhost
```

5.4. （続き）

- ③ tasklist コマンドを実行し、iexplore.exe が起動していることを確認します。

```
tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

- 例 -

```
C:¥ > tasklist /FI "IMAGENAME eq iexplore.exe"
```

イメージ名	PID	セッション名	セッション#	メモリ使用量
iexplore.exe	760	Console	0	45,824 K

```
C:¥ >
```


5.4. (続き)

ieexplore.exe プロセス監視の再開と確認

(2) ieexplore.exe プロセス監視の再開と確認をします

① 『Watch』に移動してください。

PcheckList の

“C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥Pfile_ieexplore_Process”
にチェックを入れてください。

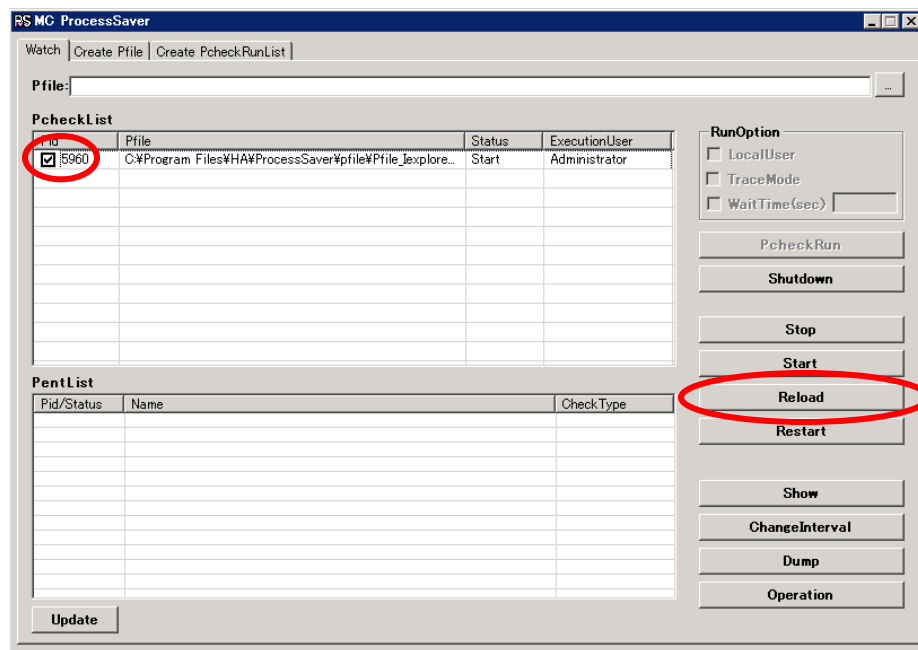


図42 『Watch』

② Reload を押してください。

5.4. (続き)

- ③ 下記画面が表示されますので、はい(Y) を押してプロセスの監視を再開してください。

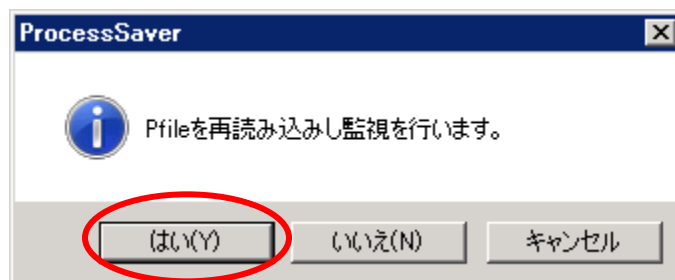


図43 Reload 確認画面

5.4. (続き)

③ PcheckList の

“C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥Pfile_!explore_Process”
にチェックを入れ、*Show* を押してください。

ProcStatus が [Avail] になっていることを確認してください。

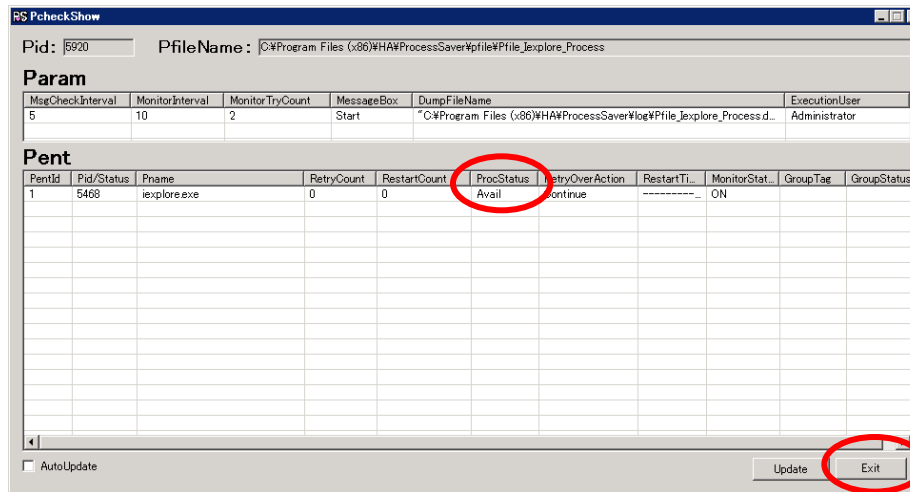


図44 『Pcheck Show』

④ *Exit* を押して『Pcheck Show』を閉じてください。

5.5. プロセス監視の終了

プロセス監視の終了手順について

ProcessSaver のプロセス監視の終了手順を確認します。

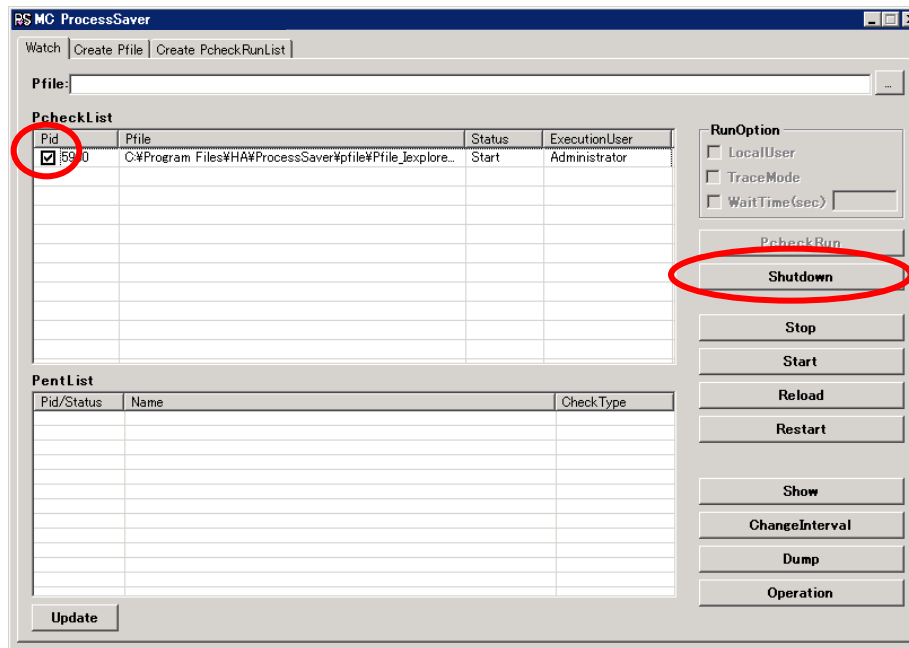


図45 『Watch』

- (1) 『Watch』に移動します
PcheckList に表示されている行に
チェックを入れてください。
- (2) Shutdown を押してください。

5.5. (続き)

(3) 下記画面が表示されますので、**はい(Y)** を押してプロセス監視を終了してください。

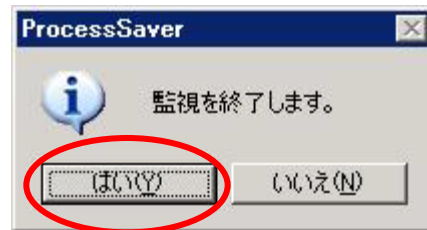


図46 Shutdown 確認画面

6. 自動起動設定について

自動起動設定について

OS 起動時に、ProcessSaver による監視の自動起動の設定と確認について説明を行います。

6.1. PcheckRunList の設定

PcheckRunList の設定について

OS 起動時に監視を自動的に開始する設定ファイルを作成します。

(1) 『Create PcheckRunList』に移動します

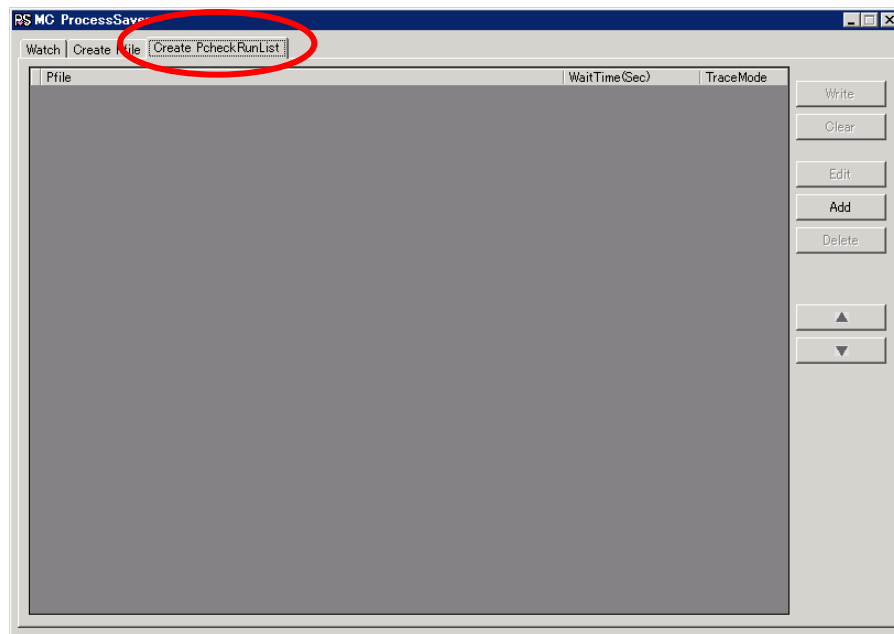


図47 『Create PcheckRunList』

- ① [Create PcheckRunList] タブを選択してください。
- ② Add を押して『SelectPfile』を表示させます。

6.1. (続き)

(2) PcheckRunList に追加する Pfile を選択します

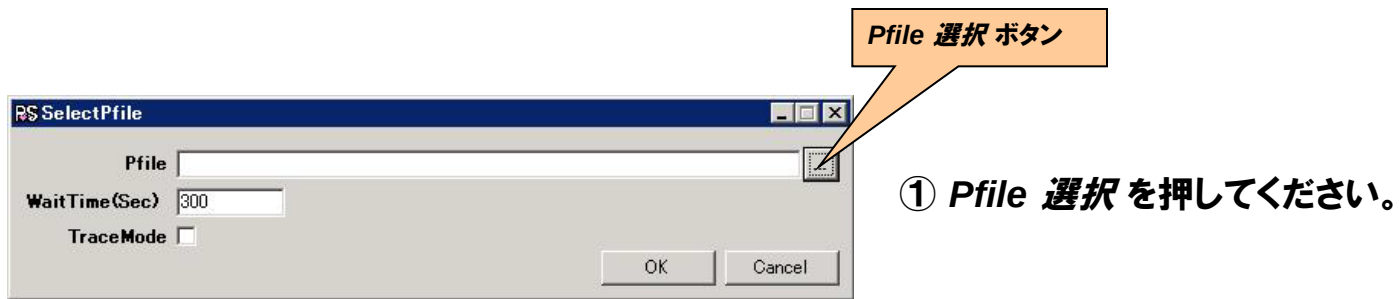
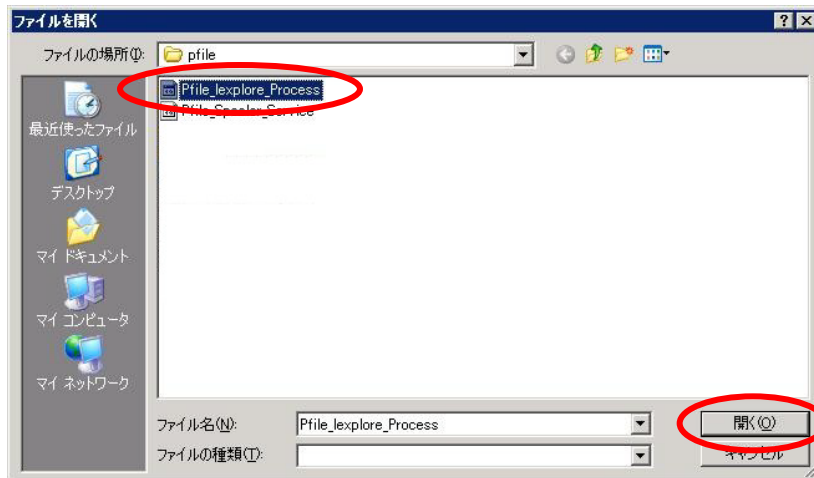


図48 『SelectPfile』

6.1. (続き)

② 『ファイルを開く』が表示されます。

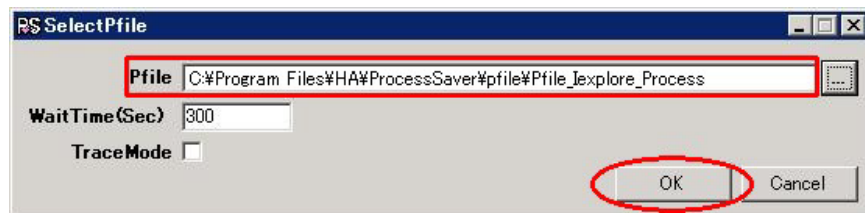


「4.2. 設定ファイルの作成」にて作成した
【Pfile_lexplore_Process】
を選択し、**開く (O)** を押してください。

図49 『ファイルを開く』

6.1. (続き)

③ 『SelectPfile』が表示されます。

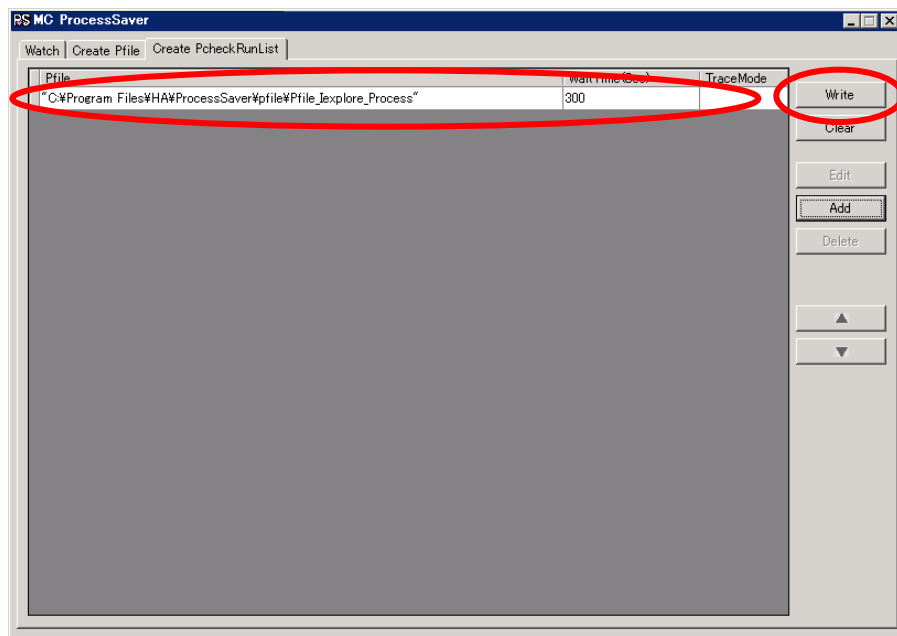


内容を確認してOK を押してください。

図50 『SelectPfile』

6.1. (続き)

(3) PcheckRunList を保存します



入力した内容を確認し、*Write* を押してください。

図51 『Create PcheckRunList』

6.1. (続き)

下記画面が表示されますので、**はい(Y)** を押して設定を保存してください。



図52 PcheckRunList 保存確認画面

6.2. 自動起動設定の確認

自動起動設定の確認について

- (1) ProcessSaver コンソールを終了し、HA ProcessSaver サービスを再起動します
- (2) HA ProcessSaver サービス再起動後、ProcessSaver コンソールを起動してください

注意

事前に監視対象 (iexplore.exe) を起動してください。

6.2. (続き)

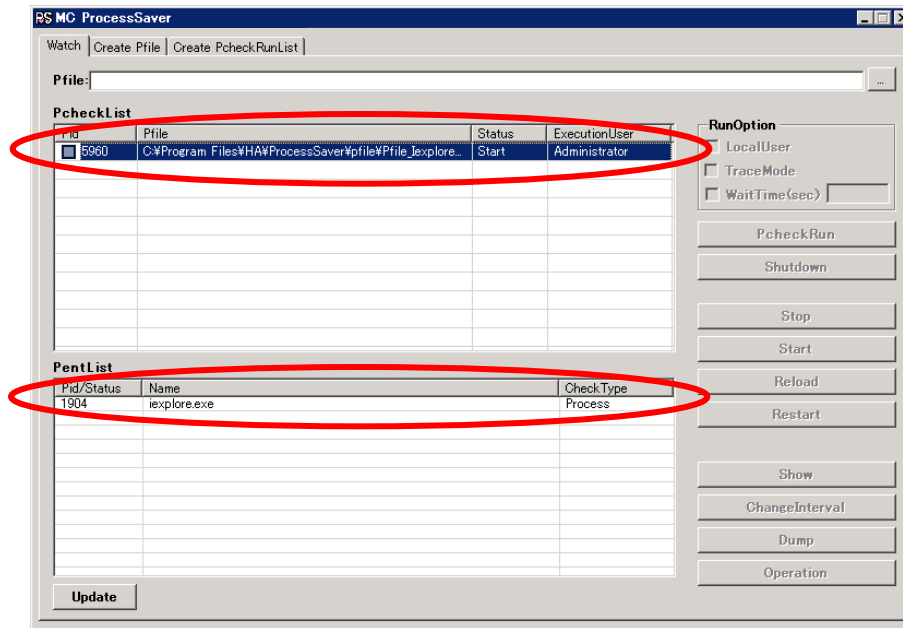
Pcheck の起動確認

(3) Pcheck の起動を確認します

PcheckList の内容を確認し、

“C:\Program Files\HA\ProcessSaver\pfile\Pfile_!explore_Process”

が表示されていることを確認してください。



注意

HA ProcessSaver サービスの再起動後、PcheckList に表示されるまで約 30 秒程度かかります。

図53 『Watch』

7. おわりに

おわりに

以上、ProcessSaver の基本的な動作となります。

その他の監視対象プロセスについても、同様に設定・監視を実行してみましょう！

また、この他にも同一名プロセスの監視やクラスタ連携、グループ監視などシステムにあわせた多種多様な監視を行うことができます。

高度な監視の方式については、各 ユーザーズガイド をご覧ください。

Empowered by Innovation

NEC